

サル近接警戒システム＝猿人善快＝ 基本仕様及び設置姿

独立電源（DC 12V）モデル

【独立電源】

- 1日の必要電力：160Whをまかなうことのできるシステム
 $5W \times 24h + 40W \times 1h = 160Wh$
- 1日の稼働を、待ち受け23時間、警報発報1時間として設計
- ソーラー・パネル容量：84W（1200 x 530 x 35 約8.5Kg）
- 効率の良い充電制御が可能なチャージ・コントローラを本体に搭載
- バッテリー容量：160Ah（12V）
- 10年メンテナンス・フリーの完全密閉式（米軍規格品）を採用
- 不日照10日間に対応するための容量を確保（80Ah x 2）
- ※支持支柱（メイン・ポール）は、本システムに含まれません。
- 積雪量など設置場所の状況判断により、設置方法を検討下さい。
- 金属キャビネット（OR25-69）を支柱に取り付ける金具は、支持支柱建柱の費用の中で見て下さい（本システムには含まれません）。

【受信機能】

- 受信対応周波数範囲：140MHz～170MHzの範囲を含む
- 受信可能電波形式：USB/LSB、NFM
- SSB受信感度：0.25μV S/N10dB以上
- NFM受信感度：0.7μV（12dB SINAD）以上
- メモリチャンネル記憶数：最大1000CH
- スキャンスピード：約37CH/秒 Max

【通報機能】

制御エンジンOS-KII搭載無しの場合

- 警報音：発信信号受信当初から6秒間（連続受信の場合、6秒後からは無音）
- 回転灯：発信信号受信当初から その後は、連続受信中継続して点灯

制御エンジンOS-KII搭載の場合

アナログ発信器

- 閾値時間以上の連続受信（10秒～10分）があった後に検知と判定
- 警報音：発信器信号を閾値時間以上検知した時点で発報
6秒間を1～10回まで設定（設定時間後からは無音）
- 回転灯：警報音動作に連動 その後は、連続受信中継続して点灯
閾値時間以上、検知ができなくなった時点で、消灯

デジタル（適法）発信器

- IDを識別したら検知と判定
- 警報音： 発信器IDを検知した時点で発報
6秒間を1～10回まで設定（設定時間後からは無音）
- 回転灯： 警報音動作に連動 その後は、連続受信中継続して点灯
閾値時間以上、検知ができなくなった時点で、消灯

Mail通知：警報発報のタイミングで、接近を通知

回転灯消灯のタイミングで、離反を通知

※送信できるMailアドレス先は、PCmailに準拠

ftp送信： Mail通知と同じタイミングでデータをサーバーに転送

※Mail通知／ftp送信機能の利用には、ネットワーク接続環境が必要

【記録機能】

制御エンジンOS-K IIに内蔵する機能

受信データ（履歴）を、年毎のホルダ内に、月毎のcsvファイル型式で保存

USBメモリ、またはネットワーク経由で、取り出してExcel等で加工・管理することが可能

【その他】

雷サージ対策： アンテナ用同軸アレスタを内蔵

警報制御タイマ： 発報時間帯を設定することが可能（24hバックアップ付）
Mail通知、ftp送信機能には関係しません。

アラーム音量調整： 消音／小／大

自己診断機能： 受信装置の異常を回転灯の連続点灯により通知

空中線： 標準は、高利得・無指向性型
設置ロケーションや目的により選択可能

【消費電力】

無信号時（待ち受け受信時） 0.4A最大 最大約5W

作動時（最大） 3.4A 約40W

【動作温度】

-5～50℃（連続通電の場合、-20～50℃）

【形状】

本体

屋外用金属製キャビネット（OR25-69）に本体およびバッテリーを収納

寸法：600x900x250

内蔵本体は、400x500x200

重量：約93Kg（設置時）

本体 約8Kg

バッテリー 2個で約48Kg

金属キャビネット 約35Kg

トランペット・スピーカー（外付け）

120φ 高音圧型

標準空中線（標準）

全長1.78m

重量2Kg

同軸ケーブル 6m付属

30～60φパイプに取付可能な金具付

回転灯（黄色）

187φ35W

30～60φパイプに取付可能な金具付

ソーラー・パネル架台

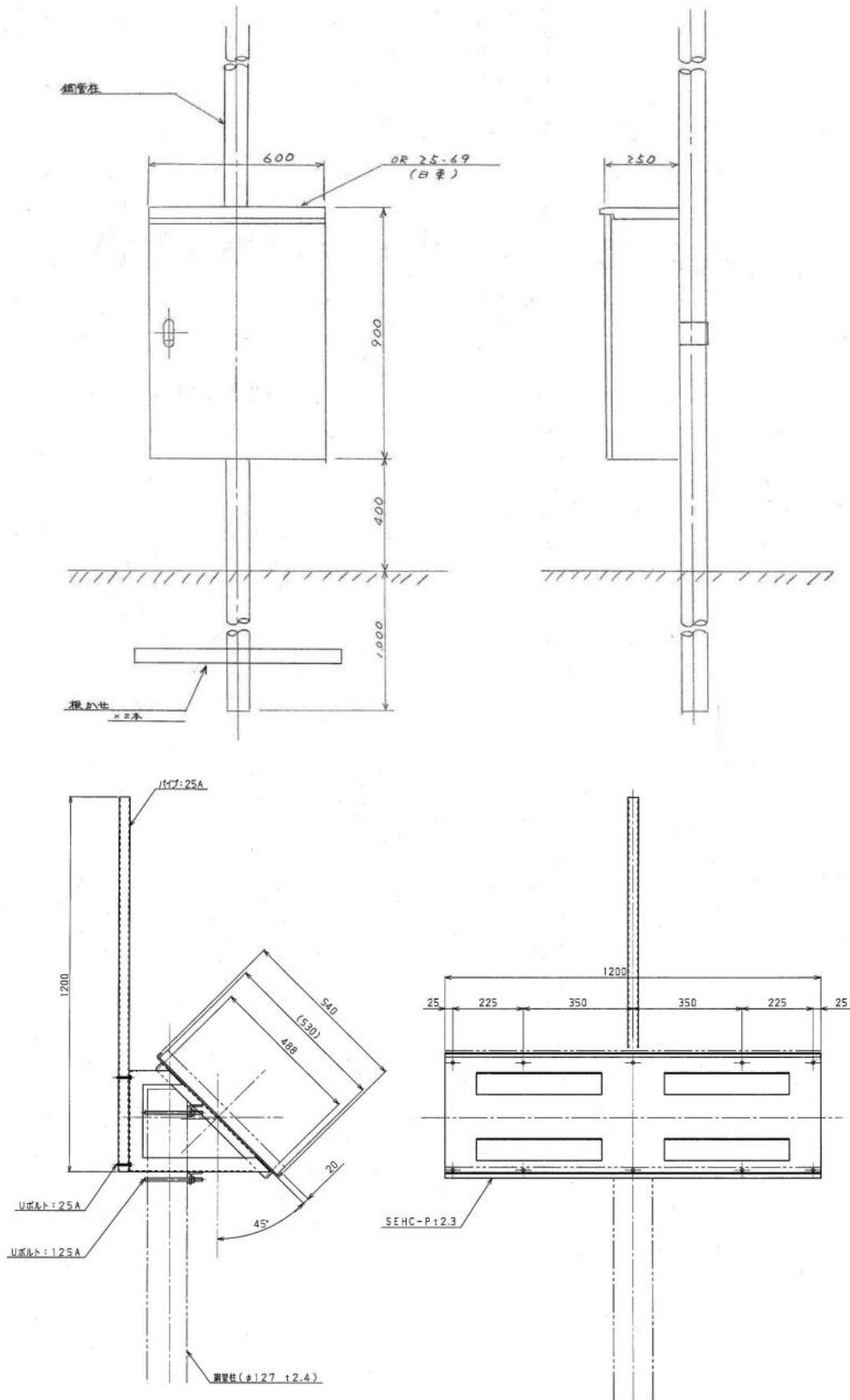
アンテナ・回転灯を取り付けるサブポールをセット

φ89、φ127支柱に対応

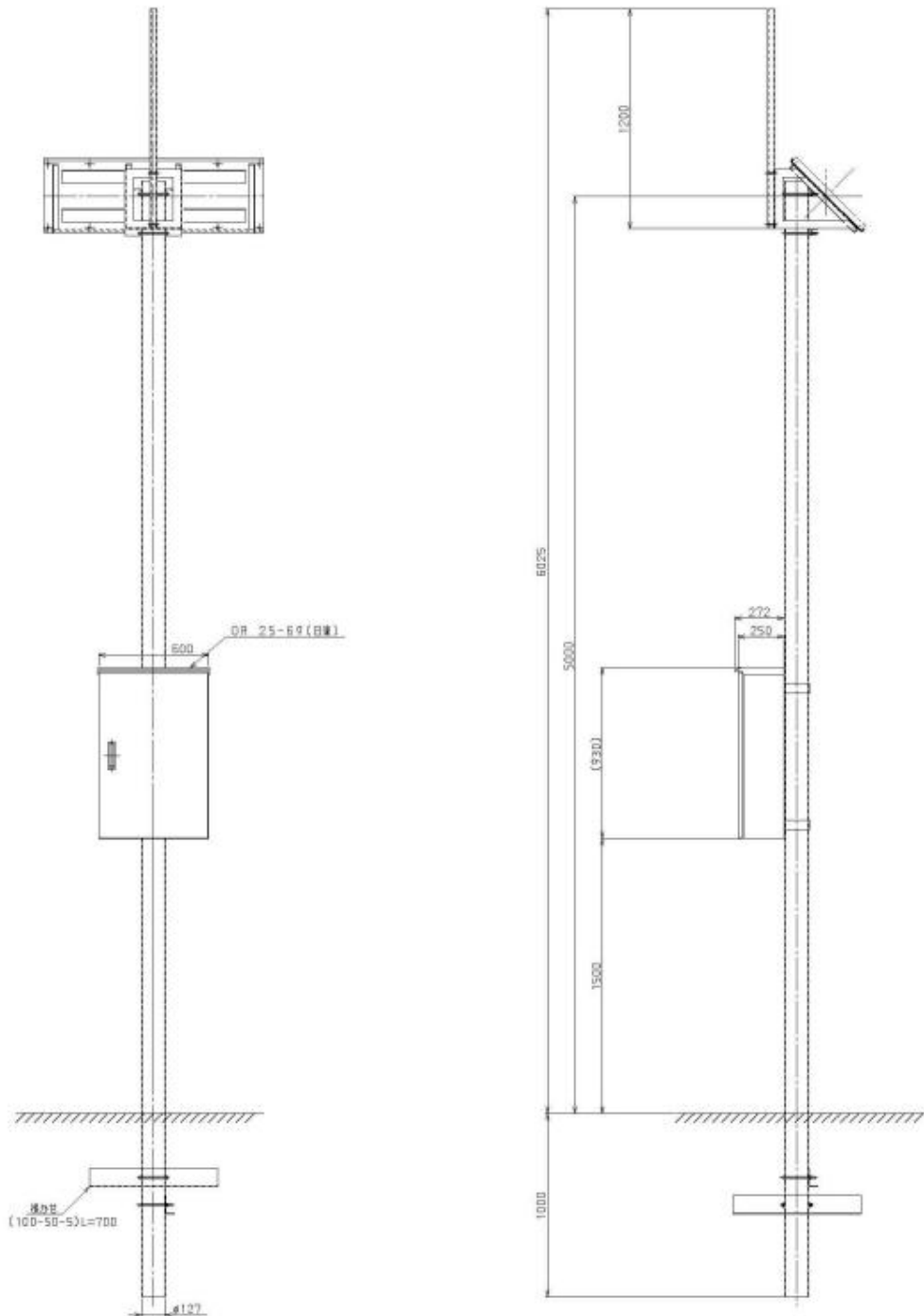
重量約Kg

耐久性の高い焼き付け塗装に、金具類は全てSUSを採用

【施工関連情報】 φ89柱：積雪の少ない盤の底～G L 3～400mm程度の地域用



φ127柱 盤の底～GL 1500mm 積雪が多い地域用
ソーラーパネル/架台は、φ89柱と同じ
地盤にあった適切な基礎工事が必要



施工についての詳細が必要な方は、別資料『施工についての補足』を確認下さい。